

## 今日のキーワード 「GW」は海外旅行が過去最高並み（日本）

大手旅行代理店のJTBは、毎年ゴールデンウィーク（「GW」）を前に、「GW」旅行動向の調査結果を発表します。今年で49回目となる調査は、4月25日～5月5日の出発日に1泊以上の旅行に出かける人を対象に実施され、人気の旅行先や支出動向などが盛り込まれています。消費者のマインドを測る指標のひとつとして有用です。今年は、カレンダーの日並びが良く、長期の旅行に出かける人が多いようです。

### ポイント1

## 海外旅行人数は過去最高に迫る 支出は節約派と積極派の二極化の傾向

- JTBが4月6日に公表した「2017年ゴールデンウィークの旅行動向」によると、この期間の総旅行人数は2,360万人と前年比1.7%減少する見込みです。ただし、昨年よりも「GW」後半の日並びが良いことから、海外旅行へ出かける人は同1.2%増の59.5万人と過去最高に迫る見込みです。一方、国内旅行は2,300万人と同1.8%減少する見通しです。
- 一人あたりの旅行費は、「2万円未満」が40%超と昨年より増加しました。また、「6万円以上」の割合も増加しており、今年の「GW」は「お金をかけずに旅行する派」と、「せっかくのGWなので相応に支出をして旅行を楽しむ派」の二極化の傾向が見られます。

### ポイント2

## 国内旅行は「帰省」が増加 長期の休みを利用した遠方旅行も人気

- 国内旅行の「目的」では、「帰省、離れて暮らす家族と過ごす」が昨年より13.7ポイント増加しています。長い休みを利用して「帰省」する人が多いようです。また、同行者は「家族連れ」が71.2%と割合が最も高く、なかでも「子供連れ」の割合が増加しています。
- 海外旅行は、節約傾向が強まっていることからアジアを中心とした近距離の旅行が引き続き人気ですが、今年はハワイやカナダ、北欧・スペインなどヨーロッパ方面の遠距離旅行も人気の旅行先となっています。



### 今後の展開

## 旅行にも“メリハリ消費”の傾向

- 今回の調査によると、昨年よりも為替が円高傾向になっていることや、今年2月から復活した燃油サーチャージが以前の金額に比べるとそれほど大きな金額ではないことから、海外旅行へ出かけやすい状況となっています。
- 「GW」の旅行動向でも、根強い節約志向がうかがわれつつ、「GW」などイベントの日には相応の支出をして楽しむ様子が見られました。今後ともこうした“メリハリ消費”の傾向は続きそうです。

### ここも チェック!

2017年 4月14日 景気の拡大・回復を示す「さくらレポート」（日本）  
2017年 4月12日 「街角景気」は一服感が続く（日本）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。